

一橋論叢第五十八卷総目次

論 説

社会地理学における環境論の系譜……………	奥田義雄	一	一	号
社会地誌について……………	鴨澤巖	一	一	頁
——トルコに例をとりながら——				
アジア諸国の農業生産力と地域的特性……………	石川滋	一	三	通頁
ユナイテッド・フルーツ会社と「バナナ共和国」……………	小原敬士	一	五	三
インドシナにおける製塩の民族史的意義……………	大林太良	一	六	五
明治後半期における東北地方の工業……………	松田孝	一	八	六
ヴェストファーレンの孤立荘宅……………	浮田典良	一	一〇	八
南伊社会と南部問題……………	竹内啓一	一	一〇	一〇
——社会地理学の一視点——				
中小工業の概念……………	美濃口時次郎	二	一	一六
会社財務における「株価極大化」目標についての一考察……………	木村増三	二	六	一六
シェイクスピア「ソネット集」の構成……………	菊池亘	二	三	二〇

英米法学者としての田中和夫先生	堀部政男	三	二六三
「抗拒不能の衝動」と刑事責任	植松正	三	三〇〇
地方自治の本旨	田上穰治	三	三二三
勾留処分と被疑者取調	鴨良弼	三	三七七
実体司法法	高根義三郎	三	三五三
——民訴概念の法源としての実体私法——			
メンテース(中)の倫理と論理(前篇)	藤井義夫	四	四〇九
重農主義と自然法思想	坂田太郎	四	四三三
——ケネー、デュボンに寄せて——			
インフレーション理論の再検討	花輪俊哉	四	四八
地方財政の現状と問題点	木村元一	五	五九
日本の工業化と交易条件	小島清	五	五五五
——塩野谷命題に関する覚書——			
変動為替相場制についての問題点	吉野昌甫	五	五七六
造船工業と下請中小企業	外池正治	五	五九四
——その序論的分析——			
景気刺戟と予算の型	石弘光	五	六四四
日本経済の有効成長径路	時子山和彦	五	六四一
外国従属会社連結における計理換算について	白鳥庄之助	六	六七七
——片野学説の一側面をめぐって			

新準備資産創出のメカニズム	小泉明	六	一元	六五
業績管理会計論の一研究	松本雅男	六	三	七一
日本の経営学の基本問題	山城章	六	五	七〇
—— 日本的経営と日本の経営 ——				
公益企業における料金設定問題と企業利益の計算区分	西川義朗	六	三	七〇
について	木村栄一	六	六	七三
利益保険の本質	岡本清	六	二五	七九
操業度差異の再検討				
—— ホーングレンの機会原価的アプローチ ——				
研究ノート				
Max. min. 記法について	山田欽一	二	五	二八
—— 応用数学と数学教育の観点から ——				
ベリンスキイとヘーゲル美学(1)	藤井一行	二	五	三五
—— 接近の理由と意味との考察 ——				
利率構造論の最近の問題状況	稲垣寛	二	三	三三
—— 期待理論における若干の問題点の検討 ——				
ルーン問題について	熊野聡	二	三	三四〇
カントに於ける原則の意味	知念英行	二	九	三四七
「パディラックにおける国家の相対的平等論」	大谷良雄	二	六	三四四
ウルリクス・フベルス『各国間における異なる法の軋触について』				

(訳と註・第五回)	妖場準一	三	六	三〇
アメリカ合衆国における特許権濫用と公共政策	川口博也	三	九	三一
時間について同質な分裂過程の異時点変量の結合確率				
母関数と2次までの積率の計算の訂正	磯野修	四	四	四五
ウルリクス・フベルス『各国間における異なる法の抵触について』				
(訳と註・第六回)	妖場準一	四	五	四八
ガッサンディのデカルト批判	福居純	四	五	四七
要素代替と調整速度	吉岡守行	四	六	四七
物自体に就いて	知念英行	四	六	四七
初期リストにおける政治と経済	岸本嬉子	四	六	四九
第二次大戦後の国有化の動向について	横川新	四	六	五〇
明治三十年代前半の新聞『日本』の読者層	山本武利	四	六	五〇
排滿思想の意味	板垣望	四	六	五七
——楊篤生の場合——				
地代概念の拡充	美濃口武雄	五	二九	六五
——地代と価格の関係について——				
低関税国特惠関税の部分均衡分析	山澤逸平	五	三九	六七

書評

Horst Claus Recktenward (Hrsg.) *Lebensbilder großer*

<i>Nationalökonomien</i> , Köln und Berlin, 1965.....	種 瀬 茂	二	三	二六一
マニエリスムリッパ、ロック研究史におけるA・ハウザーの位置.....	河村 錠一郎	二	九	二六七
——近著『マニエリスム』をめぐって——				
Yuji Ijiri, <i>Management Goals and Accounting for Control</i> , Amsterdam, 1965.....	佐藤 宗 弥	二	一〇	二七五
上山安敏著『法社会史』.....	勝 田 有 恒	三	一〇	二七八
Castor H. P. Law, <i>The Local Remedies Rule in International Law</i> , Librairie E. Droz, Genève, 1961.....	皆 川 洸	四	一六	二八六
布施彌平治著『明法道の研究』.....	隈 崎 渡	四	二五	二九三

年譜・著作目録

自撰年譜抄.....	石 田 龍 次 郎	一	一〇	一〇一
石田龍次郎名誉教授著作略目録.....		一	一五	一〇一
名誉教授田中和夫先生年譜.....		三	一四	一〇六
名誉教授田中和夫先生著作目録.....		三	一八	一〇〇
名誉教授片野一郎先生略年譜.....		六	二四	一〇〇
名誉教授片野一郎先生著作目録.....		六	三〇	一〇六